

平成29年度第3回根室市市政モニター会議【記録】

1. 日 時 平成30年1月25日（木）午後6時30分～午後7時30分
2. 場 所 根室市役所 2階 中会議室
3. 出席者 【市政モニター】 5名

【市 側】 6名

総務課長、情報管理課長、市民環境課長、公民館館長
広報広聴主査、広報広聴担当

4. 以下、会議詳細

○広報広聴主査

本日は、提言書の内容をひとつずつ確認し、皆さんからご意見等いただきながら提言書を最終的な形にしていきたい。そして、2月下旬～3月上旬頃、提言書を市長に提出し、意見交換を行うという流れで進めていきたいと思っている。

行政情報の発信力強化

提言1「わかりやすい情報発信」

■具体的な取り組み

- ・ 市民に親しまれる新しい企画や、特集を組むなど、広報ねむろをリニューアルする。
- ・ 行政情報や市主催事業の情報発信が多いため、地域で活躍する市民の活動をもっと取り上げるなど、広報ねむろやSNSを活用し、地域コミュニティ活動を紹介する。
- ・ 「声の広報」や「FMラジオ」など、耳から入る情報を有効活用する。

【主な意見】 特になし

提言 2 「年齢階層別の情報発信」

■具体的な取り組み

- ・ 「広報ねむろ」から一定の年齢階層に特化した情報を集めた「広報ねむろ集約版」を作成し、特定の年齢層が集まる箇所へ配置する。
- ・ 若者など、広報紙を読まない層へ向け、ホームページやSNSを活用した情報発信を強化する。
- ・ 高齢者にも見やすいよう「広報ねむろ」のレイアウトを工夫する。
- ・ 広報紙・インターネットなどの市の広報媒体について周知を行う。

【主な意見】

◎モニター（A）

直接関係はないかもしれないが、高齢者の方などは、市に電話しても、「どこの課ですか」と聞かれることに不安を抱いたり、面倒になってしまう人は少なくない。若い人なら、わからないことあれば、SNSを見ればわかると思うが、高齢者のためにも、総合的な窓口があり、そこに電話すると相談をある程度受けてくれるようなところがあればよいと思う。新しいことを発信していくのも大事だが、もともとあるものをより良くすることも必要だと思う。

◎モニター（B）

市民相談室は総合相談窓口とは違うのか。

◎モニター（A）

市民相談室にたどり着く前段に、電話すれば、ある程度のことを教えてくれる窓口があればと思った。

○広報広聴主査

現在市役所では交換手が用件を聞き取り、担当課に繋いでいる状態である。

◎モニター（A）

交換手は、ごみ収集の関係はどの課か、などの簡単な質問には応じてくれると思うが、人によっては、自分の要件に合う課にたどり着くまでに時間がかかるのが、わずらわしく感じてしまう。そのためにも、もう少し踏み込んだことを聞きたいときに、相談に乗ってくれる窓口があればよいと思う。

○広報広聴主査

窓口サービスに対する意見であり、テーマの「情報発信」と結び付けられるかわからないが、提言書に盛り込めるか検討してみたい。

他に、具体的な取り組みとして、「市の広報媒体の周知」があるが、ひとつの手段として、根室・釧路新聞に行政情報を掲載している「市民ニュース」や、FMねむろで放送している「市役所だより」などで市の広報媒体などのコマーシャルを増やしていく方法などがあると思うが、他に市の広報媒体を周知するのにいい方法や手段がもしあれば、助言を頂きたい。

◎モニター（C）

やはり最も市民の目につくのは広報ねむろだ。その中で特に市民に周知したいものについては、レイアウトや表現を工夫し、今最も伝えたい情報を掲載するコーナーが固定してあるとよいと思う。

○広報広聴主査

ただいまの広報紙のレイアウト変更についていただいた意見については、提言書に盛り込みたいと思う。

提言3 「市民の求める情報の把握」

■具体的な取り組み

- ・ 市民に対してのアンケート調査などを実施し、市民ニーズと現状の課題を明確にする。

【主な意見】

◎モニター（A）

市役所は様々なアンケートを実施しているかと思うが、どれくらいの回答があるのか知りたい。

○広報広聴主査

その時々で違うが、市民の皆さんの関心が高いものに関しては回答率が良い傾向があると思う。最近の例では、「知床」ナンバーの導入に関して、総合政策室がとったアンケートに関しては3割ほどの回答率であった。

◎モニター（A）

アンケートをすることについては良いと思うが、回答率がどのくらいのかあればいいのかは課題になるのではないか。

○広報広聴主査

もっともだと思う。アンケートを実施する場合には、実施方法について十分に検討する必要があると思う。

地域コミュニティの活性化

提言1 「町会への加入促進における行政の支援について」

■具体的な取り組み

- ・ 町会への加入を促すための積極的な広報を行う。
- ・ 各町内会に対し、新規会員の加入促進を呼びかける。

【主な意見】

◎モニター（C）

これらのことを積極的に実行していくしかないのではないか。町会の班長会議でも、アパートなどに入っている若い方は町会に加入しないことが課題として挙がっている。町会自体が動かなければ、相手側も動いてくれないのではないかと感じている。このことから、市の窓口で転入手続きの際に書類を渡すという話についてはよいと思う。

○広報広聴主査

提言書には、転入手続きの際、転入者へ所属する町会関係者の連絡先を知らせるといった、具体的な内容を盛り込むべきだろうか。

◎モニター（C）

あまり詳しく知らせると、プライバシーの関係で、差しさわりがあるとの意見があった。具体的なことを書く必要はないと思う。「町会関係者の連絡先を知らせる」という文言は削除したほうがよいと思う。

○広報広聴主査

それでは、具体的な方法については、提言書には記載しないこととしたい。

提言 2 「地域活動啓発と担い手育成」

■具体的な取り組み

- ・ 地域コミュニティで学ぶ出前講座や研修会を実施する。
- ・ 広報ねむろなどで地域コミュニティの特集を組むなど、地域コミュニティの重要性を伝える。
- ・ 地域コミュニティの後継者を発掘する。
- ・ 市が主体となった今働いている現役世代の方や住民の方が地域づくりに参加しやすい環境をつくる。

【主な意見】

◎モニター（A）

後継者の「発掘」という言い回しに違和感がある。「発掘」の文言は削除したほうがよいと思う。

○広報広聴主査

そのように、提言書を修正したい。

◎モニター（D）

出前講座や研修会についてであるが、地域コミュニティ自体、幅が広く深く、内容が多いと思う。地域コミュニティといっても1から100までであるような形の中でどこに焦点を当てるかが重要だ。自分の思いとしては、町会が実践している活動や、個人レベルの活動、サークルや団体の活動を把握したうえで、必要な出前講座や研修会を実施して行ってほしい。

◎モニター（E）

そもそも、何か助け合わなければならなくなった時のために、研修や出前講座などの事業があるのではないか。

○広報広聴主査

そのとおりだ。今までの時代とは地域コミュニティに求められるものは昔と変わってきており、今後ますます重要になる。それに対し市も地域コミュニティの重要性について広報活動を進めていくことが求められており、その内容は今回の提言の内容に盛り込まれていると思う。

◎モニター（C）

出前講座については、その活動自体が行政の情報発信媒体となっているのではない
か。出前講座をやれば自然と行政情報発信力強化にもつながっていくと思われる。

◎モニター（D）

例えば、大きな災害があった際、消防・自衛隊・役所はすぐ来ることはできない。だ
から、その時のために出前講座や研修会、普段から顔を合わせるなどし、地域のつな
がりを保つていくことが必要である。最終的には、市民一人一人が行政ばかりを頼るの
ではなく、町会、個人、隣同士レベルで助け合って自立していくことが理想的ではないか。

◎モニター（E）

災害はもちろん、高齢者との付き合いをはじめ、障がいをもった方など多様な人々
がいる中で、隣人同士で個人的な状況を知られたくない方もいるかと思う。しかし、災害
時にも助け合わなければならないと思うので、地域コミュニティ活性化における
対策は大切であると考えます。

提言 3 「地域で活動する市民団体の支援について」

■具体的な取り組み

- ・ 市民活動団体の助成制度を活用し、市民活動を支援する。
- ・ 「ふるさと根室ガイドブック」などを活用し、市民活動を周知する。

【主な意見】 特になし

提言 4 「町会や市民活動同士の連携」

■具体的な取り組み

- ・ 運動会などの学校行事や地域のイベントに合わせて町会同士が交流できるイベントを
実施する。
- ・ 市民活動団体同士の交流の場を創出する。

【主な意見】

◎モニター（D）

厚床とかはずらん学園と町会とが交流イベントを実施していたり、厚床小中学校
が地域の人と関わって運動会などを行っている。やはり小さい地域は活動的だ。

◎モニター（A）

市内の私たちにはない発想かなと思うが、市内でやると大変ではないか。

◎モニター（C）

花園町も交流活動を実施しており、町会自体の児童自体が少ないが、周りの町内会からも児童が集まる。

◎モニター（B）

昭和町では、ハロウィン仮装などのイベントも実施している。

◎モニター（C）

そうした活動をする町会が減ってきた。だからこそ続けていくことが大切だと思う。

全体を通しての意見

◎モニター（C）

広報紙や広報活動への市民参加ということで、市民ボランティアを活用し、市民カメラマンの募集など、参加型の広報活動を行うのはどうか。他の都市のものを参考にしたものだが、市で情報が得られないところを、一般市民や町内会のボランティアが写真を提供することで地域コミュニティに参加させるなどといった面では良いのではないかと。カメラ好きをはじめ、スマートフォンなどの写真でも気軽に参加できるようにしたり、ある程度ボランティアを決めるなどやり方は多様だが、市としてもひとつの情報源として活用できるのではないかと。

○広報広聴主査

ただいまいただいた意見については、「行政情報の発信力強化」のところ盛り込めるか検討したい。

全体通して、今のように具体的なアイデアがあれば発表していただきたい。

◎モニター（A）

今の話とは全く違う話になるが、市政モニター選出において、継続するにあたり、一定の基準などはあるのか。

○広報広聴主査

これまでは、継続してモニターとして参加いただいている方もいたが、今年からは、多様な市民の意見を取り入れるため、メンバーを一新させていただいた。

◎モニター（A）

市政モニターを継続したかったのにできなかったという話を聞いた。本人に意欲があっても継続は不可能なのか。

○総務課長

同じ方が継続してモニターをやることは、今までの流れもわかり、貴重なご意見を頂けるといふ面もある一方、新たな議題で会議を展開していくうえで、多くの方から意見を伺いたいということで、今回はメンバーを一新し、推薦形式を取り入れるという手段をとらせていただいた。広く市民の方の意見を聞くということを優先した結果となる。

◎モニター（A）

では、市政モニターの話聞いた一般市民がぜひモニターとして参加したいといった場合はどうなるのか。

○広報広聴主査

基本的にどこかの団体に所属している必要がある。団体からの推薦をしている理由としては、それぞれの分野の市民からの幅広い意見を頂くためである。

◎モニター（A）

内部の話になるが、役員でローテーション決めているため、今度から1年後ごとしかできないとなると、次の役員が決まらなくなるため、困っている。今回のやり方が絶対というわけではないのか。

○総務課長

前年度の状況を踏まえ、次年度の形式を検討しているため、は今回のやり方が絶対というわけではない。来年度の選出方法についてはまた検討したいと思っている。

◎モニター（E）

もし公募するのであれば、話しあいのテーマを明確にしたうえでメンバーを募れば、もっと活性化した議論ができるのではないのか。

○広報広聴主査

確かに興味のある人が集まることで、より深まった議論ができると思う。来年度のモニターの募集にあたっては、今いただいた意見も参考にさせていただきたい。市政モニター会議は、市民の皆さんの意見を市政に反映させるために実施をしている。これまでの会議では、市の抱える課題探しから、モニター会議で議論するのはどうかといった意

見もあったが、行政が考える課題と、市民が日々の生活を通し感じている課題というのは違うと思う。そういう意味でも、市民の皆さんの意見を聞くことのできる、この市政モニター会議はとても重要な会議であると認識しており、今後も継続して実施していくので、引き続き皆さんのご協力をお願いしたい。

5. 閉 会